

第2回リストラ相談会を開催

ルネサス懇

3月2日（日）に、第2回目となる「指名解雇」リストラ相談会を開催しました。

ルネサス労組の歴史的屈辱

最初の話題は、2月21日に開催された柴田CEOとルネサスグループ連合の大谷会長との「対談」についてでした。現役の社員からは、歴史的な屈辱を受けたとの感想がありました。

このライブセッションにおいて一番不愉快に感じたのは、柴田CEOによる「賃金に不満があるのなら辞めれば良い。現状で辞めないのなら、賃上げの必要はない」と受け取れる発言だったと言います。確かに、労働組合の無い会社であれば、諦めて我慢するか、さもなければ辞めるしかないでしょう。しかしそれを何とかするのが労働組合の目的と役割です。柴田CEOは、そんな労働組合の存在意義などまったく意に介さないが如き暴言を、大谷会長に面と向かって浴びせました。

発言者は「ルネサス労組の歴史において、労組のトップが全社員の面前でこんな恥をかかされたことは、かつて無かったのではないか。とはいえ、大谷会長がこれを恥と認めるのかも分からない」と困惑していました。

柴田CEOの失点でもある

しかし一方で、これは柴田CEOの失点ではないかとの意見もありました。「これまで何度も、定昇できない理由を数字を出して具体的に説明しろと言っても、一向に納得の行く説明が無かったのは、きつと出来ないからだと思っていた。今回おそらく調子に乗って本音が漏れたのだらうけど、経営上の困難から定昇できないのではなく、やる意志が無いからやらないのだとはっきりした。柴田CEOが日本人の社員を心から馬鹿にしていることが良く判った」との意見に、参加者一同も同意し

ました。

中途採用者も辛い目に

ユニオンの森書記長からは、ユニオンが団体交渉をしている別の会社の案件でも、「辞めればいい」的な発言が出ているとの話がありました。

ルネサスに限らず、大手電機各社でも近年は中途採用が増えていきます。賃金などが好条件と思って入社したら、入ったとたんに成果を求められ、成果が出ないことを理由に賃金を下げられたと言うケースがあったと言います。「入社時の契約と違うのではないか」との追求にも、会社側は「就業規則に書いてあるから」「嫌なら辞めればいい」と、にべもなく言っただけのことでした。（ちなみに就業規則は、その内容自体が法に則っていることを求められるもので、決して万能の免罪符ではありません。）

打開できるのは労働組合のみ

話し合いはこのあと、困っていることや不安なことについて、さまざまな話題が出ました。会社はこれからどうなるのか、国内はじり貧ではないのかと言う話、過去に技術評価をしていた人がいなくなると同じ評価を繰り返しているという話などルネサスに関する話や、米などの物価高の話や政治の話などが次々に語られ、森書記長からは有益な見解を多数いただきました。

さて、柴田CEOの「不満があるのなら辞めればよい」と受け取れる発言は大変問題です。そもそも労働者個人と会社とは対等な契約関係にはありません。その理由は、労働者には働かないという選択肢が無いからです。そして対等な関係ではないが故に、賃金決定を単なる需要と供給の関係に帰すことができないのです。現状を打開する手段は、労働者が団結して賃上交渉をすることを置いてありません。

＜発行者＞
ルネサス関連
労働者懇談会
(ルネサス懇)
意見と情報は、
〒142-0043
東京都品川区二葉
2-20-8 染野ビル
(電機労働者
懇談会気付)
(03) 6421-5323

電機・情報ユニオンへの相談は、

